

歴史を今に伝えて

木野目稲荷神社本殿付 嘉永五年棟札

木野目地区は九十川流域に位置し、かつては洪水に見舞われることも多い場所でした。当社は五穀守護の神として勧請され、仁寿稲荷と呼ばれています。

本殿は覆屋内の切石積基壇上に据えられた小型の一間社流造で、屋根は板ぶきです。江戸末期に川越に流行する江戸彫を多用する本殿の一つですが、その中では、建築自体の架構（木組み）は比較的簡易な部類に属します。



木野目稲荷神社本殿

この建築のいちばんの見どころは、板壁にはめ込まれた彫刻。左側面は「鶴」「翁」「唐子」、右側面は「亀を助ける浦島太郎」、背面は「天女」「鳳凰」「麒麟」です。いずれも人物と背景、事物が程よく調和した優れた江戸彫で、背面の鳳凰の下に「東都彫工元祖 嶋村俊元八代 嶋村俊表」の刻銘があります。嶋村家は俊元を祖とし、江戸中期から関東で活躍した彫物大工の名家で、俊表は江戸末期に活躍し、成田山新勝寺釈迦堂（成田市）・田無神社本殿（西東京市）、川越では氷川神社本殿を手がけたことが知られています。

建立年代は、棟札から嘉永五年（一八五二）と判明します。大工棟梁は忽滑谷糸造、小工は篠沢源造・根岸松五郎で、



本殿背面の彫刻

大工棟梁と彫物大工が分業していたことを史料的に裏付ける事例です。覆屋内にあって保存状態はよく、また建築・彫刻の質が高いことから、江戸末期に市内に流行する江戸彫を用いた本殿の一指標となる建築です。

所在地 木野目 二六二

117

TV わが街川越 番組ガイド

どんぐり 編集後記

葉が落ち始め、朝晩の寒さが増していいよ冬本番。この冬はインフルエンザが大流行するとの予想です。いちばんの予防策は手洗いとうがい。単純ですが、継続することが大切です▶ことしを振り返ってみると、広報川越は4月10日号で1100号を迎え、初めて市ホームページに掲載した号になりました。4月10日、自宅のパソコンで広報を見てみると、すでに100人以上の方が見た記録があり、うれしかったのを覚えています。それ以来、新しい広報がホームページに載るたびに、何人の方が見たかを気にするようになりました▶ことしは戦後60年、川越市合併50周年、自治会連合会結成50周年、そしてサツマイモ伝来400年といった節目の年でした。来年は、川越ナンバーが誕生。そしてこれからの川越の指針となる第三次総合計画がスタートします。新たな年が、市民の皆さんにとってよい年になりますように。



整備が進む霞ヶ関駅北口

平成十八年の新春に語る
ことは、国の重要無形民俗文化財に指定された「川越まつり」をはじめとする催しで盛り上がり、福祉・交通など市民生活に直結する施策が充実。これらを踏まえ、今後の市政を舟橋功一市長が語ります。

テレビ埼玉（38ch） 毎月第1・第3土曜日とその翌日の日曜日に放映

1月7日(土)／午前9時30分～9時40分

1月8日(日)／午後5時30分～5時40分

川越ケーブルテレビ（15ch）

1月7日(土)～20日(金)

午前9時20分～・午後0時45分～・午後4時20分～・午後5時45分～・

午後8時45分～（金～日曜日）・午後10時50分～（月～木曜日）

テコケーブルテレビ（9ch）

1月23日(月)～29日(日)

午前6時30分～・午後0時30分～・午後4時30分～・午後7時30分～・午後9時30分～

*変更になることがあります。あらかじめご了承ください。